

平成 17 年 7 月 16 日

まち全体をキャンパスに！立教大学 実験講座を開催

～立教大学と区の「教育連携」第 1 弾～

本日 7 月 16 日（土）立教大学で、小学校 5 年生から中学生を対象にした実験講座「宇宙線をキャッチせよ」を開催した。参加者 5 年生 9 人、6 年生 5 人、中学 1 年生 4 人、中学 2 年生 5 人。

立教大学（押見輝男総長）と豊島区（高野之夫区長）は、家庭・学校・地域社会が連携して教育力を高めようという「まち全体をキャンパスに」構想の促進のために、今年度から「教育連携」の事業を開始した。先行して、立教大学理学部と区立小・中学校の「理数教育連携」が具体的活動を開始、「教育連携」初の事業として、本日実験講座が開催された。

「理数教育連携」は、子どもたちの「理数科離れ」が問題視されるなか、子どもたちに対して、知的好奇心の刺激によるサイエンスへの興味を引き出し、楽しさを実感させようという試み。区教員へは、大学の人的物的な資源を活用した最新サイエンス情報を共有する研究会の発足なども視野に入れている。一方、大学生には子どもたちに「教えること」を通して自ら学び直す場にしていこうと考えている。夏休みに入ると理学部の教授が、平成 16 年度日本学生科学賞での個人研究最優秀賞の受賞をはじめ、毎年連続で入賞者を出している区立明豊中学校科学部の部活動の支援を予定している。大学と区は、母体となる「(仮称) 教育サイエンス研究会 (理数分科会)」の立ち上げに向けて準備中である。

実験講座「宇宙線をキャッチせよ」

日 時 平成 17 年 7 月 16 日（土）午後 2 時～4 時 30 分

会 場 立教大学池袋キャンパス 13 号館（理学部棟・西池袋 3-34-1）

主 催 立教大学理学部ほか 後 援 豊島区教育委員会

企画実行委員会 立教大学理学部 北本俊二教授、栗田和好助教授、村田次郎助教授、

実験講座に参加した子どもたちは、午後 2 時から栗田先生の「宇宙線と自然放射線」の講義を受け、宇宙からのメッセージである宇宙線が、飛行機雲のように捕まえられることを学んだ。栗田先生は、子どもたちに「一番大切なことは、実験を楽しくする事。（学生の）お兄さんたちに色々なことを聞いてください」と説明。続いて、大学院生 5 名、大学生 1 名の指導で、身の回りにある微量の「放射線」を捕まえるため、ペットボトルを使った装置を作り、アルコールの蒸発を利用して宇宙線の観察を行った。子どもたちは、みな宇宙線を捕らえようと真剣に自分の作った装置を覗き込んでいた。

要小学校 6 年千葉舞子さんは、「理科の授業より実験が好き。今日の実験では霧が集まって、宇宙線がシュッと見えて楽しかった」と感想を語り、お母さんの千葉晃子さんは、「科学を勉強というより遊びの感覚で楽しんで、興味が広がるといいと思う」と話してくれた。また、池袋第三小学校 6 年の平林真理子さんのお母さんからは「大学施設を使って実験できる機会なので、申し込みました。こうした事が子どもの将来に何か役に立てばいいなと思います」と感想を語ってくれた。実験終了後栗田先生の質問に「宇宙がどんなになってるかな？と考えた」という感想も聞かれた。

詳細： 立教大学理学部